□議員名：奥良秀

1　安全・安心なまちづくりについて

論点	本市では緊急の防災情報を市民に確実に伝達するために、どのような防災情報伝達システムで対応をとっているか。
回答	本市の防災情報伝達システムは、国から発信された防災情報を衛星回線や地上回線を通じて市役所に設置された受信機で受け取り、その情報をＭＣＡ無線やＩＰ無線を通じて市内に設置した屋外拡声器から、また、コミュニティーＦＭの電波を利用して、防災ラジオや市内公共施設から市民の皆様へ防災情報を一斉送信、放送するシステムになっている。

論点	情報を聞き、自主的に避難するのは市民である。今後、市民への周知を具体的にどのように行い、本市が掲げる「逃げ遅れゼロ」の目標に取り組むか。
回答	この度の防災情報伝達システムの構築により、伝達の仕組みは整備できた。これを市民の皆様に受けてもらい、適切に避難につなげることができるよう周知・啓発を行っていく必要がある。そこで、地域の防災リーダーや防災士の皆様にも協力してもらいながら、出前講座や地区の防災訓練等を通じて周知を図っていくことで「逃げ遅れゼロ」を目指していく。

論点	流域治水対策は急務だと考えるが、現状と今後の対策をどのように実施するか。
回答	河川の氾濫対策として、土砂の堆積や地元から浚渫（しゅんせつ）要望のある箇所については、市が計画的に浚渫（しゅんせつ）を行っている。山口県が管理する厚狭川や有帆川などの二級河川は、山口県と協議しながら浚渫（しゅんせつ）を行っている。また、山林においては間伐を適期行い、林内に十分な光が入り、雑草木が生えることにより、表土の流出を防ぎ、土壌の保水力を高める効果があるので、市の事業として計画的に実施している。農地においては、耕作放棄地の増加による治水能力の低下が危惧されているため、農業における地域計画の策定に当たって、防災・減

	災の観点についても話合いの項目に含めていきたいと考えている。

論点	横土手の遊水池はいつも水が溜まっていて、少しの雨でも一杯になっているが、この状況で大丈夫なのか。
回答	この遊水池には、高千帆地区の水がほとんど集まってくる。低地なので溜まってしまうが、理想的には、あそこの排水機場はもっと大きく、内水をどんどん排水するような施設があるといいかと思う。以前、下水道課で検討したことがあるが、今は別の視点から内水対策のハード整備は何ができるのか、様々な観点から検討している。

論点	避難場所と避難所の違いは何か。
回答	避難場所は、災害が発生した際にその危険から逃れる場所、施設である。まさに災害がこれから起こる、又は、その最中に避難する場所や施設を示す。避難所は災害の発生によって家に戻れなくなった方が一時的に滞在することを目的とした施設で、災害発生後、中長期的に避難生活をする施設である。

論点	備蓄品の管理状況は、いざというときに使用できるように適切に管理されているか。
回答	備蓄品については、品目についてそれぞれ適した保管場所があると思うので、今後、早急に見直していきたいと考えている。

2　安全・安心な学校運営について

論点	近年、歩道や車道は痛み、排水口は詰まり、少しの雨でも大きな水溜りができるようになっており、横断歩道の白線は擦れ、分かりにくい場所もある。通学路の維持管理はできているか。
回答	学校によって、取組の周知が不十分であったり、危険箇所の情報が十分に集まっていなかったりという課題がある。保護者や地域の方々と連携した地域安全マップの作成、新たな危険箇所を把握するためのアンケート調査の実施など、通学路の安心安全に向けた取組を進めていく。

論点	近年、気候変動により全国で熱中症が急激に増加している。本市では県内でもいち早く小中学校の教室にエアコンを導入した。しかし、体育館にはエアコンが設置されていない。多面的な利用からしてもエアコンの設置は必要ではないか。
回答	暑さ指数や熱中症警戒アラートを確認し、活動実施の可否や実施方法の変更について判断している。複数回水分補給ができる機会をつくる、窓や扉を全開にする、大型ファンやスポットクーラーを活用するなどの手立てを講じていて、今の対策でいいかと思っている。